

教員名	古瀬 奈津子 (FURUSE Natsuko)
所 属	文教育学部人文科学科比較歴史学講座
学 位	博士 (文学) (1999 東京大学)
職 名	教授
URL / E-mail	furuse@cc.ocha.ac.jp

## ◆研究キーワード

天皇制 / 儀式 / 日唐関係史

## ◆主要業績

総数 ( 4 ) 件

- ・古瀬奈津子「摂関政治と王権—平安中期における王権」  
大津透編『王権を考える—前近代日本の天皇と権力』山川出版社、2006年11月、71—95頁
- ・古瀬奈津子「遣唐使の見た儀礼空間」  
『東海史学』41号、2007年3月、19—28頁
- ・古瀬奈津子「唐日における上表と奉表」  
『唐宋时期的法律与社会』国際学術研究会会議論文彙編、上海師範大学、2006年9月、354—360頁
- ・西澤奈津子 (古瀬奈津子)『日本古代における書状の社会的機能に関する研究』  
(2003～2006年度科学研究費補助金基盤研究 (C)) (一般) 研究成果報告書、2007年3月、139頁

## ◆研究内容

日本古代における天皇制成立の諸問題を研究している。平安時代における天皇制の変容について、「摂関政治と王権—平安中期における王権」を書いた。天皇権力の確立を前提として摂関政治が成立したこと、摂関は王権に含めて考えられること、道長によって天皇権力に密着し、他の貴族とは隔絶した摂関家の基礎が築かれたことなどを論じた。儀式から見た日中関係史については、「遣唐使の見た唐の儀礼空間」を書き、遣唐使が中国に到着し都長安において参列した外交儀礼と正月元日朝賀の儀式について、唐皇帝と日本の遣唐使の関係を考察した。また、唐の儀礼や宮城 (大明宮) が日本の儀式に与えた影響などについて論じた。科学研究費の最終年度にあたるため、研究成果報告書『日本古代における書状の社会的機能に関する研究』をまとめ、平安時代書状データベースを完成させた。9月と11月には中国の国際学術研究会において口頭報告を行った。

## ◆教育内容

学部の日本文化史概論においては、日本文化の原型はいつ成立したかについて、7世紀から12世紀までのいくつかの問題を取り上げて考えた。ビデオやパワーポイントを使用し、学生に各テーマ終了後に感想文を書かせて理解度をチェックした。日本史研究法では、日本史を研究していくための、史料に即した研究テーマの選び方について紹介した。日本古代史演習では『続日本紀』延暦2年条を読み進め、桓武天皇初期の政治や社会の変化を探った。日本古代中世史特殊講義では、日本古代における天皇制の成立と変容について考察した。大学院においては『令集解』と『小右記』を講読し、律令制の基礎とその後の社会的変化について理解を深めた。卒論・修論については発表会と個別指導を併用した。歴史現地調査では、飛鳥・奈良・京都で、古代・中世の都市空間を訪ねた。

「魅力ある大学院教育」イニシアティブの一環として、中国社会科学院歴史研究所から先生を招いて特別講義と講演会を開催し、院生をつれて北京日本学研究中心へ行き、共同ゼミを実施した。

## ◆共同研究例

---

中国法制文献の日本への伝来とその伝存状況に関する研究、日唐律令比較研究の新段階、『御堂関白記全註釈』の刊行

## ◆共同研究可能テーマ

---

- ・日唐律令制および礼制の比較研究
- ・平安時代における社会史的・文化史的研究
- ・都城制に関する文献学と考古学の共同研究

## ◆将来の研究計画・研究の展望

---

日本古代における天皇制の研究を継続して、日本社会の特質を考察する。天聖令による日唐律令制比較研究を進める。平成19年度科学研究費補助金に採択された「文書様式からみた日唐官僚制の比較研究」により、敦煌・吐魯番文書や書儀、漢詩文集などから、唐の上表文・奉表文を収集し、日本の上表文・奉表文と比較することによって、唐の皇帝と官人の関係と、日本の天皇と官人の関係との違いから、日中における集団と個人の関係を考察する。

## ◆受験生等へのメッセージ

---

女子大というと閉ざされたイメージがあるかもしれませんが、お茶の水女子大学の場合それは当てはまりません。サークルだけではなく、ゼミや勉強会を通じて他大学との交流もあります。他大学の単位を取得する制度もあります。お茶大の中だけに閉じこもらずに、積極的に外の世界とのつながりをもつようにしましょう。

ただし、国立女子大学の意義もまたあると思います。現代社会においては、まだ就職や、結婚をし子どもをもった後に仕事を続けようとした場合などに、男女平等とは言えない部分があるのではないのでしょうか。子どもの出生率が下がったままなのは、こうしたことに原因があるのではないのでしょうか。本当の意味において男女がそれぞれの特性をいかして生きていける社会を実現していくために、国立女子大学の意義はまだ大きいと言わざるを得ないと思います。